

おきつの朝市

新鮮で安いヨ 早くいらっしやい!

おきつの朝市

JA しみず興津営農拠点の敷地内にある。昭和50年代に無人販売としてスタート。歴史は長い。「最初は、女性が自分のお金が欲しくて始めたんだけど。今は、一家の大切な収入源となっている」と、杉山万珠子さんは言う。女性の力は、すごい!店頭には、採れたて旬の新鮮野菜・果物、切り立ての花、手作り小物などが鎮座。たくさんの人がやってきて、あっという間に品物が減っていく。これは、早い時間に来なければだめだな。「俺1人暮らし。週2くらいで来る。料理の仕方なんかいてねいに教えてくれるもんで、つついたくさん買ってしまっただよ。男の客も多いな」と、60代の男性常連客。会話がはずむ。レジも忙しい。

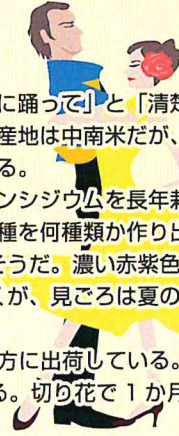
月~金: 8時~11時 土・日・祝: 休み



蘭でちょっと贅沢な気分を味わう

オンシジウム

黄色のフリルが踊り子のように見えることから、花言葉は「一緒に踊って」と「清楚」。この踊り子様の黄色い蘭が、一番ポピュラーなオンシジウム。原産地は中南米だが、日々品種改良が進み、さまざまな色・形のオンシジウムが誕生している。興津は、日本でも名だたるオンシジウムの産地だ。すごい! オンシジウムを長年栽培している北川評一さんを訪ねた。北川さん自身も、交配を重ねて新種を何種類か作り出した。「虫が飛んでいる時期に交配させるんですが、なかなか大変」だそうだ。濃い赤紫色でドライフラワーにも見える蘭(写真)、これもオンシジウム。年中咲くが、見ごろは夏の終わりから冬にかけて。ハウスでは6品種のオンシジウムが花開き、約15万本を京浜地方に出荷している。おきつ朝市で、1束(5~6本)200~300円で販売している。切り花で1か月以上もつので、しばし楽しむことができる。



太陽をいっぱい浴びた実

枇杷

枇杷といえば、静岡では土肥だが、興津の枇杷もうまい。1~2月ごろ白い花が散り、小さな実がついてくると摘果して、袋掛けが始まるのが2月下旬ごろ。1個1個袋をかけるのは大変そうだ。丁寧に枇杷と向き合って収穫は6月ごろになる。枇杷農家の飯田通義さんに話を聞いた。「うちの枇杷畑は、薩埵峠近くにあるんよ。ま、見晴らしがいいし、陽もよくあたる。だから、うまいんよ、抜群よ。潮風と強い太陽の日差しで、大きくて味のよいブランド枇杷「おきつ枇杷」ができるのだ。できた枇杷は、地元のスーパーストアやJAの販売所に並ぶ。おきつの朝市でも販売する。6月になったら、すごい甘さを、ぜひ。」



もらって、あげてうれしいバラ

バラ

「北川バラ園」の北川慎悟さんの祖父は、茶・ミカン農家だった。父の代にバラを作り始め、慎悟さんはバラ2代目。「病害虫の駆除が大変だね。その対策がひと苦労」と言う。ハウスで、シーアネモネなど約10種類のバラを育てている。作業場には、黄・真紅・ピンク・クリームなど色とりどりのバラが並び、手袋をして出荷作業に励んでいるお父さんたち(写真)。JA清水へ卸される。買いたいときは、作業場まで買いに行くかおきつの朝市で。規格外が1本100円~。アレンジメントの注文が可。切りバラを日持ちさせる方法は、下から3センチ部分を水切りして、1リットルにつき台所漂白剤1滴を入れるといい。「バラは日持ちが悪いって言われます。だから、日持ちのいいバラを作っています」と、ここもまた、すごい。乞うご期待。



バラの申し込み TEL:054-369-1285 (静岡市清水区承元寺町100)